

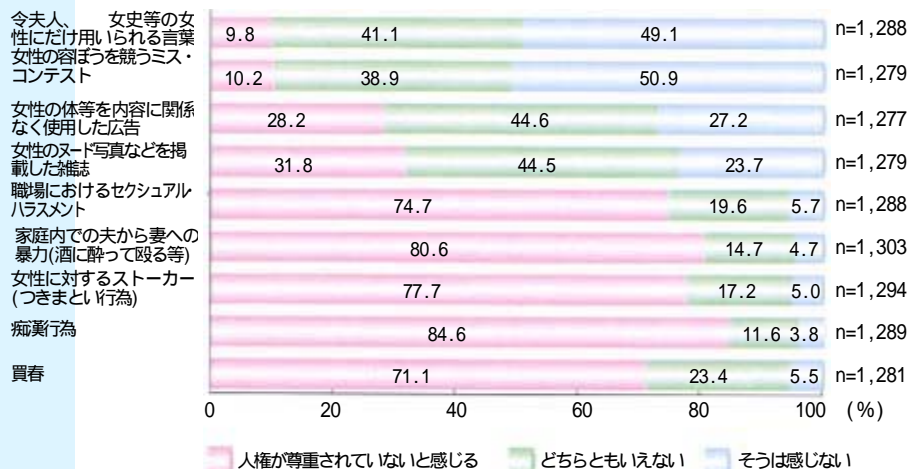


女性の人権に関する意識と実態

女性の人権が尊重されていないと感じるのは、身体におよぶ行為の場合

「職場におけるセクシュアル・ハラスメント」や「家庭内での夫から妻への暴力」、「ストーカー」、「痴漢行為」、「買春」といった身体面におよぶ行為に対して、女性の人権が尊重されていないと感じる割合が高くなっています。一方、言葉や視覚的な表現をしているものに対しては、人権が尊重されていないと感じる割合が低くなっています。

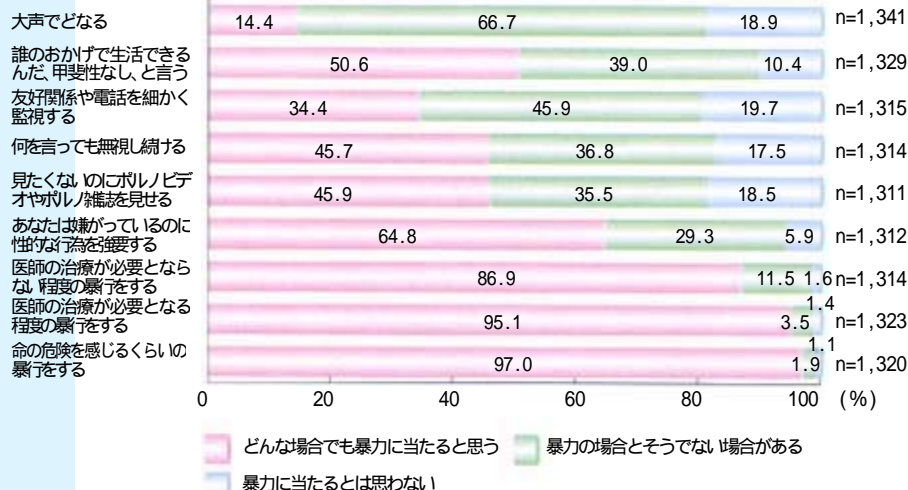
= 女性の人権に関する意識 =



精神的暴力のとらえかたには個人差がある

身体におよぶ暴力については約9割の人が暴力とみなしていますが、性的な行為を強要したり、ポルノ雑誌を無理やり見せるなどの性的暴力や、言葉で責めるまたは監視・無視をするなどの精神的暴力については、約3～4割の人が「暴力の場合とそうでない場合がある」と感じています。

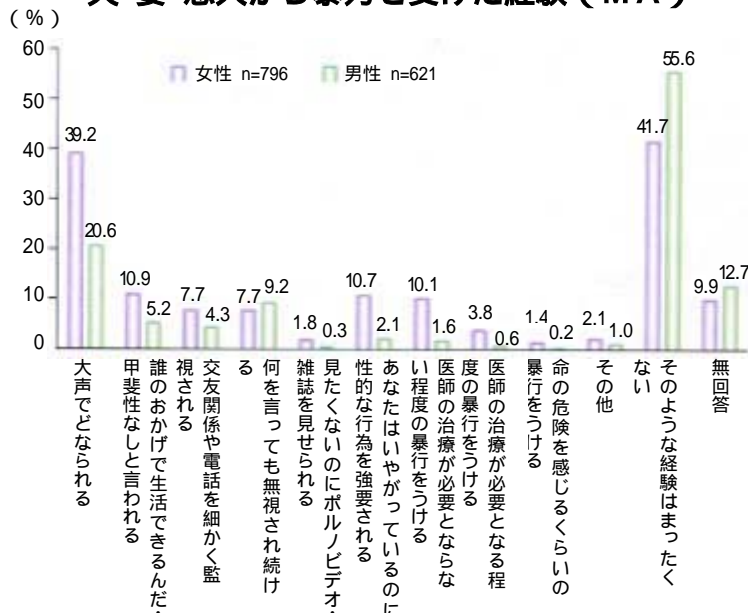
= 夫・妻・恋人からの暴力に対する意識 =



何らかの暴力を受けた経験は、女性の場合2人に1人

対象者のうち、実際に夫や妻、恋人から何らかの暴力を受けた経験は、女性は約5割(48.4%)、男性は約3割(31.7%)となっており、女性の2人に1人は暴力を受けた経験があります。特に、大声でどなられたり、いやがっているのに性的な行為を強要されたり、医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けるなどの経験が、女性に多い傾向となっています。

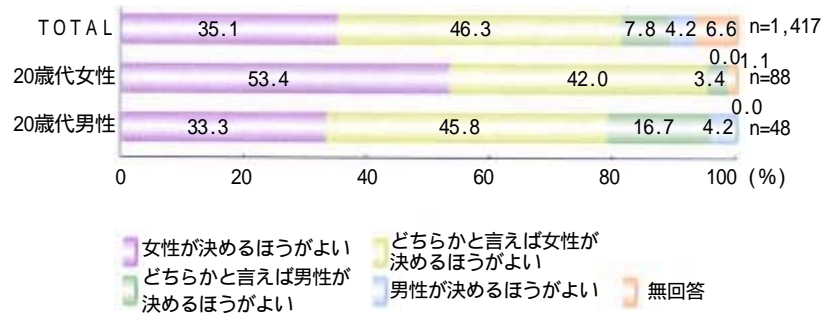
= 夫・妻・恋人から暴力を受けた経験(MA) =



子どもを産むかどうかの決定権について、20歳代の男女で考え方が違う

性と生殖に関する女性の健康・権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)に関わる、子どもを産むかどうかの決定権について、特に20歳代の男女に考え方の違いが見られました。「どちらかと言えば」を合わせると女性は9割以上が「女性が決めるほうがよい」と考えていますが、2割の男性は「男性が決めるほうがよい」と考えています。

= 子どもを産むかどうかの決定権 =



7 政策の企画・方針決定に関する意識

「男性優位の組織運営」や「積極的な行動が少ないこと」が女性参画の少ない理由

政策の企画・方針決定の場に女性の参画が少ない理由として、「男性優位の組織運営」(54.8%)をあげる人が半数を超えています。また、「女性の参画を積極的に進めようと意識する人が少ない」(44.7%)、「女性側の積極性が十分でない」(44.1%)などの積極的な行動が少ないことを要因と考える割合も高くなっています。

= 政策の企画・方針決定の場に女性参画が少ない理由 (MA) =

